

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ小美玉支援教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動内容を取り入れつつ、それぞれの活動の関連性ももっている。	関連性がある為、活動1つ行う事で他の活動を行う際にも振り返りが行える。	児童にも関連性を意識してもらえとより活動への積極性や集中力が高まる。
2	支援者が得意な活動を取り入れられている。	職員それぞれ得意分野がある為、指導内容なども工夫する事が出来ている。 他指導員にも内容の周知が素早く行えている。	他支援者での得意分野にも意見やアドバイスなどを行っている。 より内容を深めたり、得意分野を広げる。柔軟な発想をもつ。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間で児童の状況や支援内容の確認時間などの確保が短すぎる。	指導内容や状況整理がまとまらず、あいまいな部分が多い。 サービス提供時間終了から営業時間までが短く、話し合いを行う時間が短い。	個別支援の周知を行い、指導内容の再確認を行う。 事前に確認したい内容を職員間に流し、話し合いの場で見え出す。
2	保護者様同士の関わり・外部(学校・園・行政など)との連携の薄さ。	保護者様を招いての行事が無く、関わり合いがない。 行事の促しを行うも参加率が低い為開催頻度が減っていく。	開催頻度を増やしたり、参加しやすい名目で声掛けなどを行う。 保護者様が考えている・気になっている内容をリサーチして集まりを行う。 顔が見える関係を作っていく。
3			